

八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策

【研究概要】

八丈町農業生産額を維持・拡大するため、特産園芸作物における生産振興技術対策の試験を行う。

- (1) 「UV カットと有孔ダクトの組み合わせは、ルスカスのこうじかび病と葉枯れ症状の発生を抑制し、UV カット下で育成したルスカスの葉色は濃くなった。
- (2) ポット試験により、転炉スラグの施用はアシタバ株腐れ症状の原因となる 2 種のフザリウム属菌に対し、発病抑制効果があることが示唆された。
- (3) 樹上完熟「菊池レモン」の施設栽培において、通年多灌水を行う場合と同等な効果がある多灌水時期は、果実の肥大を良くし、L サイズの収穫割合を多くする点から、開花期（3～5月）および果実肥大初期（6～8月）であった。また摘果時に発生角度が上向きの結果枝（立ち枝）に着果した果実を残すことで、大果を得られる可能性が高いことが分かった。
- (4) アシタバの黒枯病に対する既知化合物 SB-390WG 水和剤の 2,000 倍希釀液の散布、キャベツのカタツムリ類に対するチオシクラム水和剤の 1,500 倍希釀液の散布、ミズナのカタツムリ類に対するメタアルデヒド粒剤の散布は、効果を示した。コマツナのカタツムリ類に対するメタアルデヒド粒剤の散布の実用性は低かった。いずれの薬剤も薬害は認められなかった。